姫雪
茅談
伊代鏡
十五編上
成の春新刻
へ13
8740
49

門へ13
3740
49

時代鏡や五編上之巻

蘭花梅

芳林堂

大約稗史を綴んに豫腹藁ふハ恁しく後を斯せんと憶ひ始らく措るも偖筆を採るに至りくハ後とゆて先ふかえ右と左りふ做も支多くり爾ハ這前廿四編の幕とからんとする前ふ那蜂澤の花作が小萩の跡と追行ものて筆後そくめて閒くくハ今道平が物語と編も果さバ小萩がらくふ暨さうといふ赴向るくしが恁まるときふハ餘談ふのく只述ふ編數嵩くそ大貫目くくる多賀の話ハざるがら忘しくるとて案を轉じて尾上助の妻子の傳ふハるもるる総て鬼が拙作るる。這物語と央綴りて又那話ふ移るるど夫等の類いと多く看官前後と讀返しく宜しく熟覽と願ふこそ

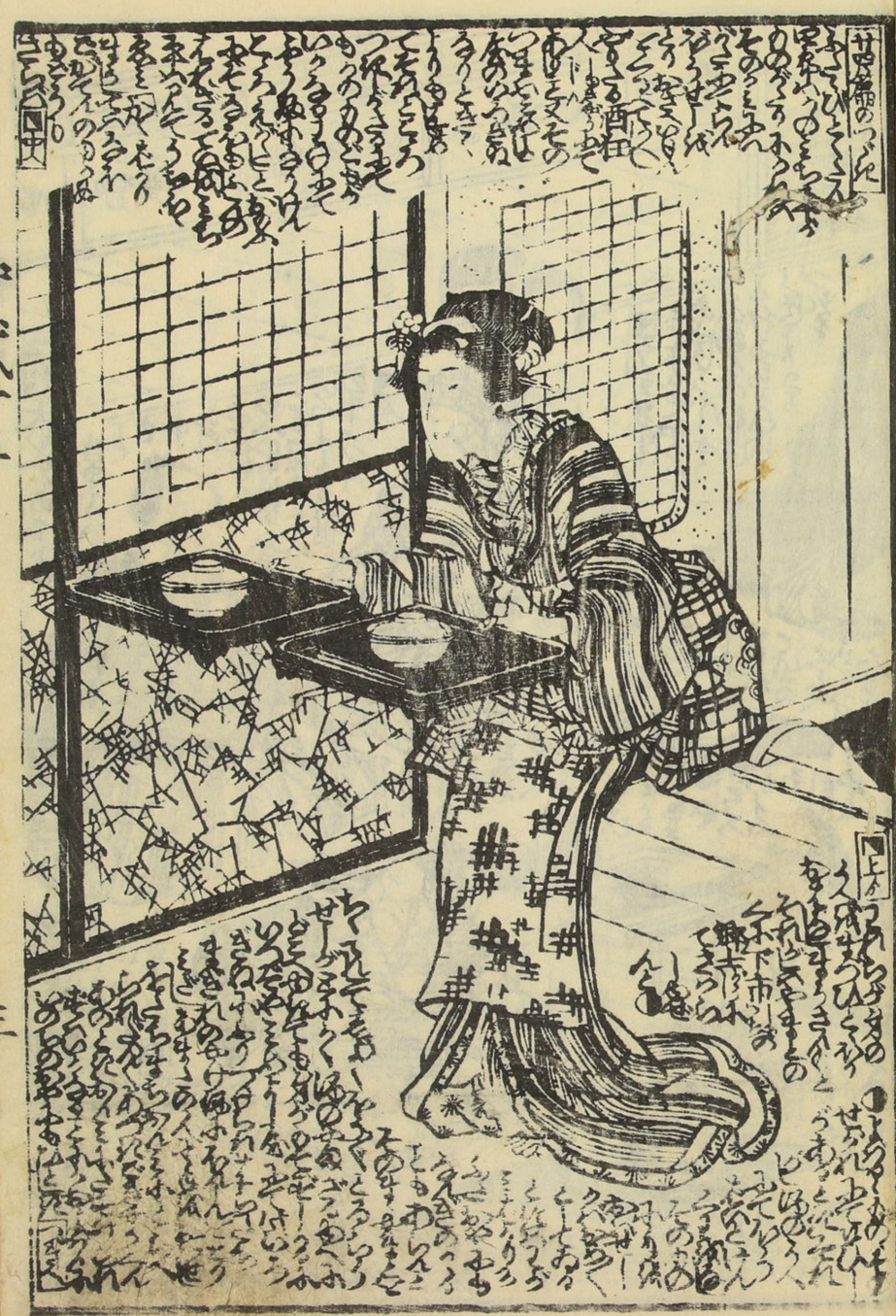
壬戌孟春
吉旦新鐫

爲永春水記

彩根の方

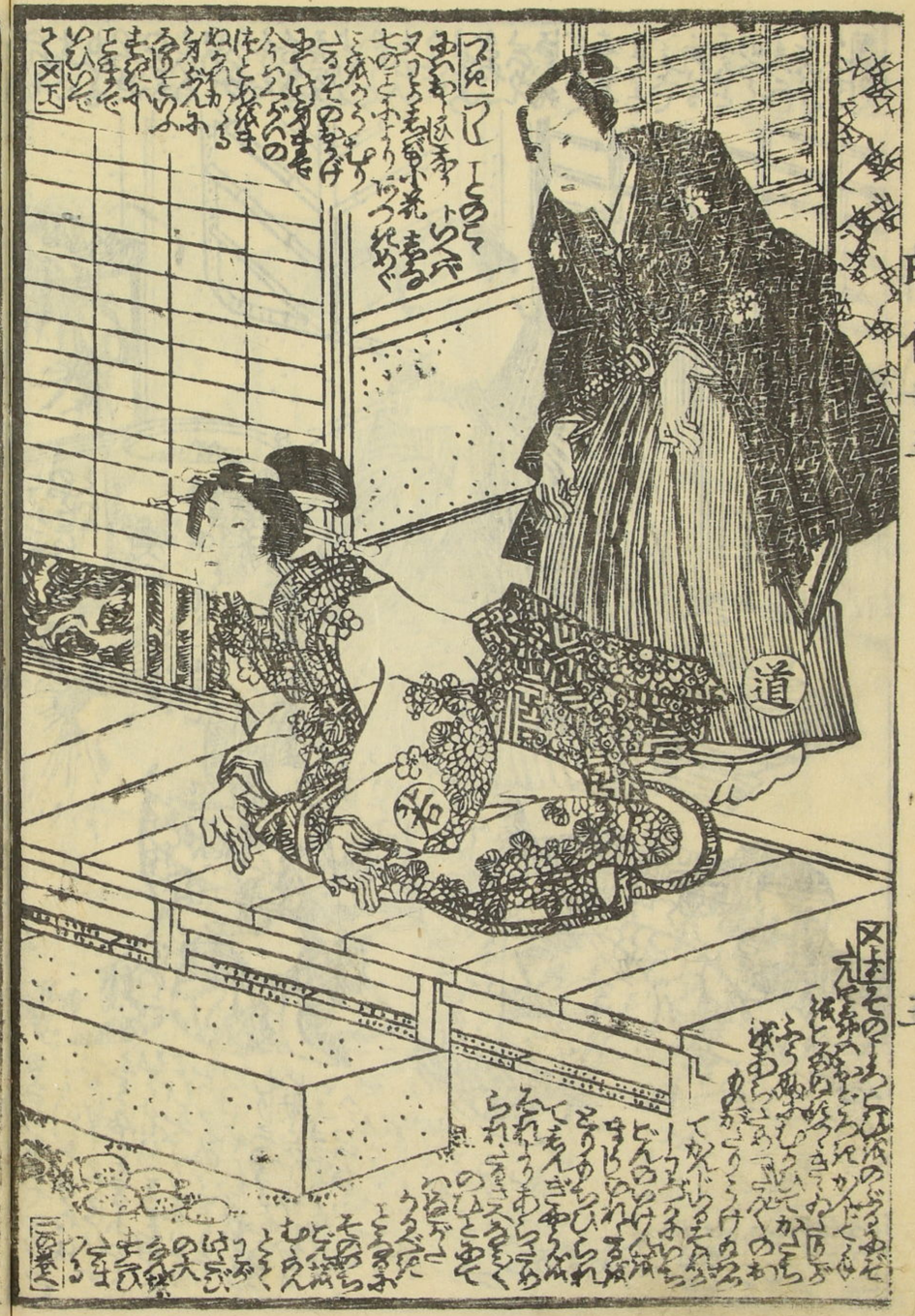
時代ゲ五

大鋪正方



時代十五

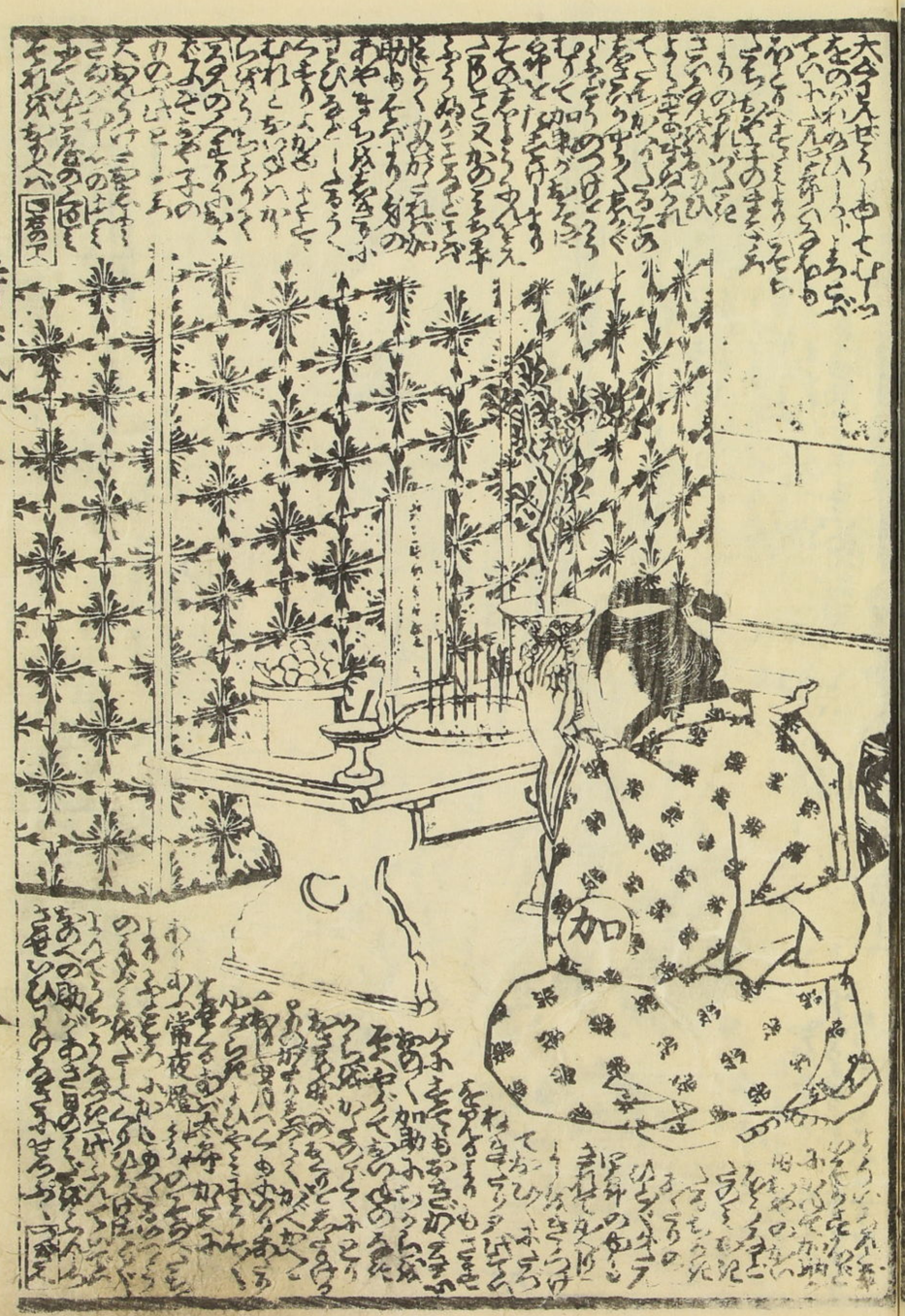
艶

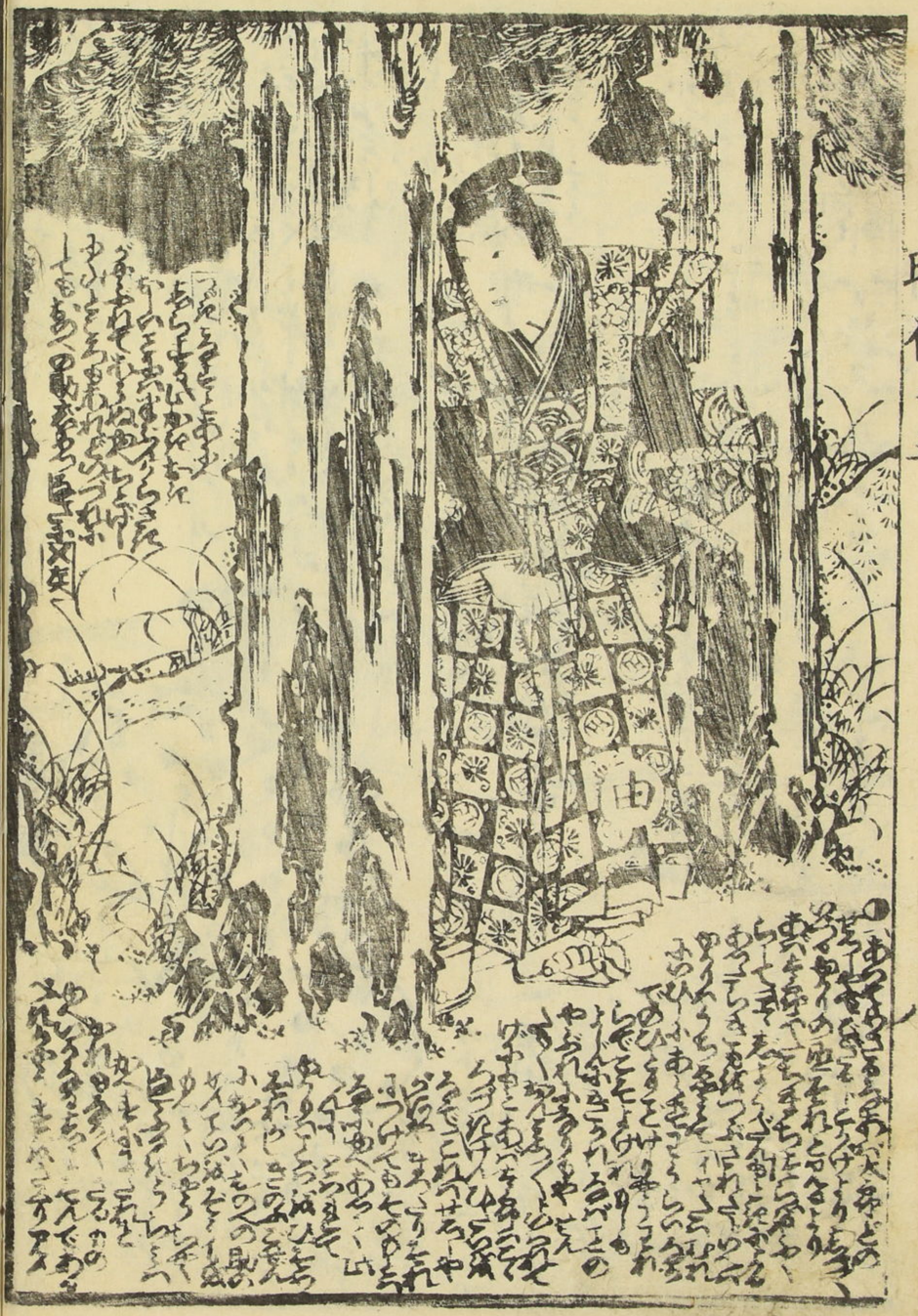

道
丹

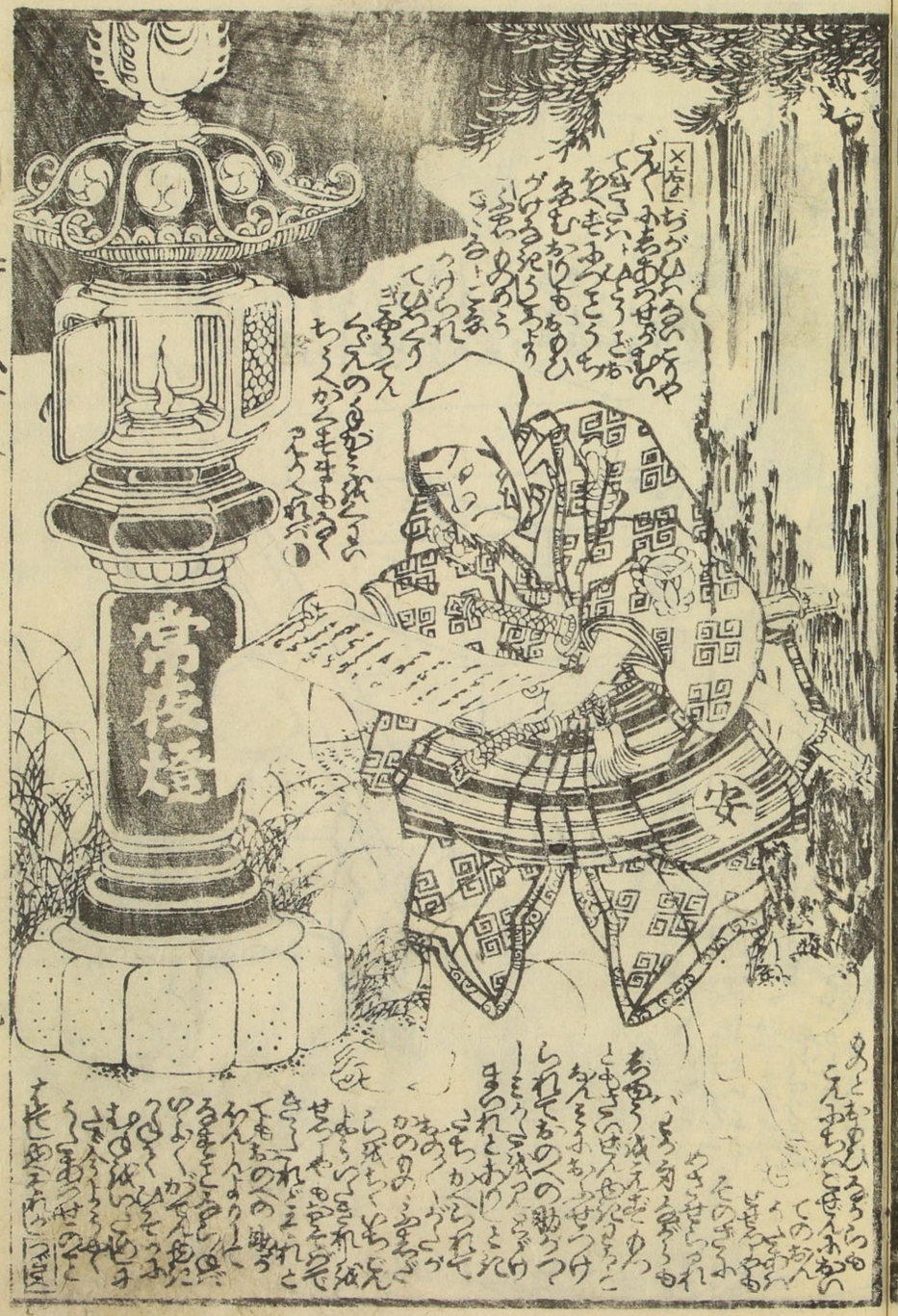
加
丹

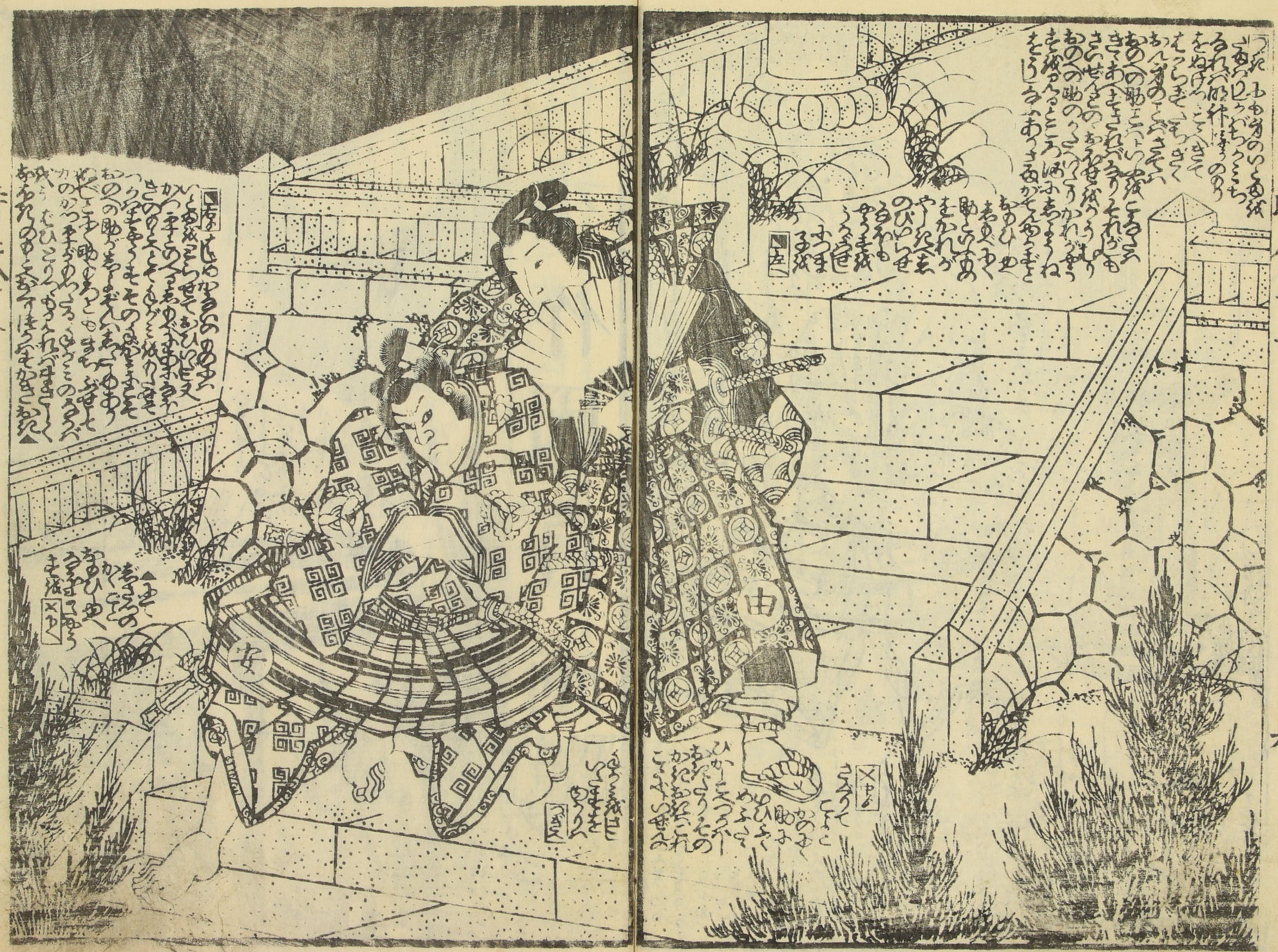
憲字多里

丹


加




常夜燈
安



春水作國貞画

風流画半切　越前奉書紙　伊豫奉書紙

○猫山　○うんむ　はち半切　はち切

注齋百図　全　上製

洞郁画

南畑ろみ図

目録白

当年新板　寿おいらん

東洋堂絵　名代紙ろう

御年玉進物第八九ろう入

浅草茅町二丁目　若林堂蔵

忠臣義士銘々伝

一猛齋芳虎画